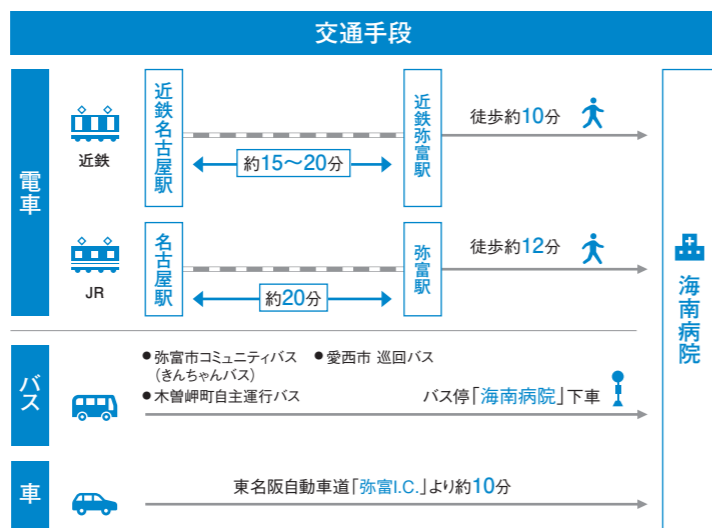


HOSPITAL GUIDE

病院案内



海南病院のシンボルマーク



海南病院のシンボルマークは、「木曾三川」「ハト」「四葉のクローバー」で構成されています。木曾三川の清流に育まれた海部弥富の地に、やささと平和の象徴のハトが安心と幸せ(クローバー)を運んできます。海南病院は、地域の皆さまに安心でやさしい「心ある医療」をご提供する、という意味が込められています。

J A 愛知厚生連 海南病院

〒498-8502 愛知県弥富市前ヶ須町南本田396番地
TEL (0567) 65-2511 (代表) / FAX (0567) 67-3697

<http://kainan.jaaikosei.or.jp/>



J A 愛知厚生連
海南病院



この先も、ずっと続く安心を。

地域の皆さまがいつまでも安心して暮らせるように。

海南病院は1938年に開院して以来、

患者さんの目線で医療施設のあるべき姿を模索し続けてきました。

平常時はもちろん、今後、どんなことが起きても充実した医療を提供できるように、

高い対応力を身につけ、皆さまに信頼される病院を目指します。

この先も、ずっと続く安心を。

地域の医療従事者の皆さまと一しょに、一人ひとりの毎日を支えています。

和の心を大切に、
やさしく強い病院をつくっていきます。



大規模な災害時に多くの患者さんの受け入れを可能にするため、エントランスホールにはベッドとして利用可能な待合椅子や、酸素・吸引の配管を設置しています。



CONTENTS

- P01 - メッセージ
- P03 - 地域医療を支える
海南病院
- P05 - 医療の現場から
- P07 - 教育研修制度
- P09 - 理念・病院概要
- P10 - 病院長からのメッセージ



地域の医療を力強く支え、 暮らしの安心をお届けします



地域の医療を支える中核病院として、地域の皆さまが安心して過ごせるよう救急時、災害時でもしっかりと医療提供が行える設備やサービスを整えています。

地域医療支援病院

地域医療支援病院とは、地域の医療機関が相互に連携・協力し、切れ目のない医療を提供する「地域完結型医療」の中心的役割を担う病院のことです。当院は、2017年に承認されました。地域医療支援病院としての役割は、かかりつけ医から紹介いただいた患者さんの診療、医療機器やその他設備などの共同利用、救急医療の提供、地域医療従事者向け研修会の実施などが求められます。当院はこれらの役割をしっかりと果たすことで、地域全体の医療の質を向上させ、地域の皆さまによりよい医療を提供していきたいと考えています。



先進の医療機器を備え、
患者さんの負担を
少しでも軽くします。

- 1 3.0テスラMRI - 従来の装置よりも磁場の強さが2倍になり、さらに鮮明な画像を撮影できます。
- 2 ダヴィンチSi - 手術をより安全に、患者さんの負担をより少なくする先進のロボットを海部医療圏で初導入しています。
- 3 CT - 320列の検出器を備えた先進のCTを導入。撮影時間を短縮でき、撮影中に動きや呼吸を止める必要もありません。
- 4 ライナック - IGRT(画像誘導放射線治療)、IMRT(強度変調放射線治療)、SBRT(定位的放射線治療)、SRS照射が可能な高機能装置です。



救命救急センター

2013年、当院は愛知県で19番目、海部地域で最初となる救命救急センターに指定されました。施設整備によって救急外来は従来の3倍の広さとなり、救急病棟を新たに20床増設。救急患者の受け入れも柔軟に行えるようになりました。



地域がん診療 連携拠点病院

当院は地域がん診療連携拠点病院に指定されています。がん診療の拠点として、専門的ながん医療の提供、地域の医療機関との診療連携、がん患者さんに対する相談支援および情報提供といった役割を果たします。



地域周産期母子 医療センター

地域周産期母子医療センターとして前置胎盤、妊娠高血圧症や双胎など、ハイリスクの妊婦さんを広く受け入れています。産科救急に注力しており、母児に危険が生じた際はすみやかに小児科医師が立ち会い、緊急帝王切開を行える体制をとっています。



地域中核災害 拠点病院

災害時の救急医療の拠点として、重症・重篤な傷患者を受け入れるなど、災害時の医療救護活動において中心的な役割を担っています。災害時に備えヘリポートや自家発電装置、災害派遣医療チーム(DMAT)を保有しています。



医療の現場から

海南病院に勤務する医師、看護師、薬剤師の先輩からの声を集めました。

医師

Q. 海南病院を選んだ理由を教えてください。

A. 初期研修から海南病院を選んでいました。その理由は地域の基幹病院であり、症例が豊富であること。病院見学時に感じたスタッフの働いている雰囲気の良いことも決め手になりました。初期研修の頃の経験が現在の業務に活かされており、海南病院を選んで良かったと感じています。

Q. 医師として、日々どのような仕事に取り組んでいますか？

A. カテーテル検査・治療や生体検査、核医学検査、循環器領域の専門的な検査を行っています。緊急対応や慢性疾患の患者さんへの生活指導も大切な仕事です。多職種を交えたカンファレンスも行います。

Q. 医師として働くやりがいや魅力はどんなところですか？

A. 治療を行うことで、劇的に苦痛を取ってあげられるところです。まったく動けない状態だった患者さんが元気に退院していく姿を見ると、この仕事をやっていて良かったなと思います。



症例数が豊富な地域基幹病院。
恵まれた環境で大きく成長できます。



指導医が積極的かつ優しく教えてくれるのに加え、他科の医師や医療スタッフにも相談しやすい環境にあるので非常に恵まれています。院内の勉強会は頻りに開催されますし、院外での学会に参加することもできます。



Q. 海南病院だから成長できたことはありますか？

A. チーム医療の重要性をあらためて実感し「医療は一人で行うものではなく、様々な人の協力のもと成り立っている」ことを常に意識して仕事ができるようになったことです。

Q. 「働き方改革」が話題になっていますが、海南病院での働きやすさについて教えてください。

A. 当直や夜間緊急対応後に過重労働にならないよう、各診療科に配属後も休暇を取得できるように上級医が配慮してくれます。また、病院全体で盛り上がるホテルでの「大忘年会」や、ハワイなど海外に行ける「病院旅行」など、福利厚生も充実しています。

循環器内科 友岡 健さん
(名古屋市立大学出身・2015年入職)

看護師

幅広い看護を学び、実践できる病院
患者さんやご家族の関わり合いを
大切にしています。



Q. 看護師として日々どのような仕事に取り組んでいますか？

A. 手術を受ける前後の看護や急性期から回復期へ移行していく患者さんの看護を通して、患者さんやご家族との関わりを大切にしながら働いています。

Q. 海南病院では、入職後どのような教育が受けられますか？

A. 新人教育では看護技術だけではなく、社会人としての基礎的な教育についても講義を受けることができます。

Q. 学びや成長の場として、どんな機会がありますか？(研修など)

A. 病院内で行われる研修や病棟主催の勉強会が月に1回以上開催されています。研修会に参加できなかった場合でも、e-研修で研修内容の確認やテストを受けられます。

Q. 海南病院を志望する後輩の皆さんへメッセージやアドバイスをお願いします。

A. 壁にぶつかることも多いとは思いますが、共に学び共に成長していける環境を作っています。一緒に海南病院で働きましょう！



海南病院は、急性期から回復期まで幅広い看護を学び、実践できるのが魅力的。仕事の範囲内で院内研修を受けられ、休日はしっかり休むことができます。

看護部 川口 ちなみさん
(中部看護専門学校出身・2017年入職)

薬剤師

臨床の知識をさらに深め
専門薬剤師の資格を取得して
活躍したいです。



薬剤部 石田 貴啓さん
(名城大学出身・2018年入職)

Q. 海南病院では、入職後どのような教育が受けられますか？

A. プリセプター・メンター制度があり、わからないところを相談しやすい環境です。さらに月に1回程度、業務の慣れも確認してもらえる機会があります。

Q. 学びや成長の場として、どんな機会がありますか？

A. 認定薬剤師や専門薬剤師など、資格の取得について職場からフォローしていただけます。学会発表も活発に行われていて、指導してもらえる環境が整っています。

Q. 海南病院のチーム医療におけるあなたの役割(担当)を教えてください。

A. 病棟薬剤師として、患者さんの副作用などを未然に防いだり、重篤な状態に陥らないように確認するのが役割です。

Q. 今後の目標を教えてください。

A. 学会参加や発表を行うことで自身の臨床知識を深めたいです。将来的には専門薬剤師の資格を取得し、活躍できるような薬剤師になりたいです。



チーム医療実現のため、専門外の知識については、専門の他職種と濃密なコミュニケーションを図っています。これにより患者さんへ、より良い医療が提供できると思っています。

教育研修制度

「和を大切に心ある医療を実践する」という海南病院の伝統の下、救命救急から急性期、在宅医療まで幅広く学べるよう、チームで

安全で質の高い医療・看護を提供できる人材の育成に努めています。成長をサポートします。



医学生向け研修内容紹介

当院は1982年から現制度と同様の「スーパーローテート方式」で臨床研修を実施しており、教育病院としての歴史があります。構築されている指導体制や研修プログラムは、より良い研修になるよう研修医の意見も取り入れ、常に改善し、総合内科医や救急専門医をはじめとした各科の経験豊富な上級医や専門医が、診療科の垣根を越えて指導しています。

■研修スケジュール

1年次												長期休暇 1週
オリエンテーション 2週	救急		内科					外科		小児	自由選択	
	救急科 7週	麻酔科 6週	呼吸器 4週	消化器 4週	脳神経 4週	腎臓 4週	循環器+ 心臓血管外科 5週	外科 4週	整形 2週	小児科 4週	*4週	
2年次												長期休暇 1週
救急	内科		産婦	精神	地域医療	訪問	自由選択					
救急科 4週	総血膠老 4週	糖尿病・ 内分泌 4週	産婦 4週	精神 4週	地域 4週	訪問 診療 1週	*各科カリキュラムに従い、1-8週ずつローテート 26週					

●内科6セクションは、1年次で4セクション、2年次で2セクションをローテート
■総合内科、血液内科、膠原病内科、老年内科グループ
★1年次は4週間、2年次は26週間の自由選択が可能。選択科目では各科のカリキュラムに従い、1~8週でローテーションできます

■豊富な症例

<p>ER患者数 60人/日 (walk in 22,000人/年)</p>	<p>救急搬送数 19台/日 (救急車 7,000台/年)</p>	<p>入院患者数 500人/日 (18.3万人/年)</p>	<p>手術件数 5,100件/年 (手術室にて)</p>
---	--	---	---

■実務とともにさまざまなセミナーで専門知識と技術を習得!

救急専門医から学ぶ!

総合内科医から学ぶ!

ドクターカーで出勤!
1分1秒を争う現場へ駆けつけ、チームの一員として命を救う

ICLS講習会

縫合ハンズオンセミナー

初期臨床研修修了後は、各科専門医を目指し、多くの研修医がそのまま当院での専門研修に進みます。



看護学生向け研修内容紹介

2019年度から導入している「クリニカルラダー」では、看護師一人ひとりに合わせた教育内容を組み立てていきます。基本的な知識や技能を身につける集合研修と、上司・先輩から多職種の指導を受けながら実施するOJTを組み合わせて育成。先輩看護師が常に見守り、サポートしますので、しっかりと学び成長していくことができます。

■新人教育

教育担当者だけでなく、部署全体で新人を見守り、時には声をかけながら、新人看護師が「話しやすい」環境をつくっています。

院内留学制度

足りない知識を補うために、関連のある他部署への1日留学(体験)を実施。治療の一連の流れを把握でき、知らなかった看護技術を直に学ぶことで看護の幅を広げていきます。

OJT

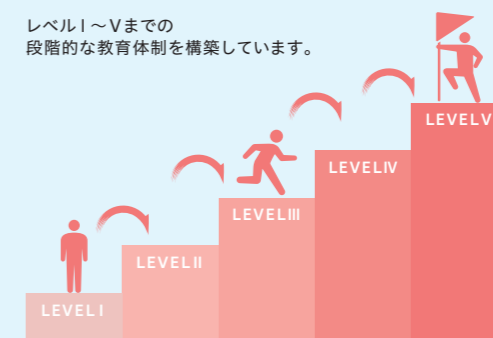
看護師2人がペアを組んで協力しあう「PNS(パートナーシップ・ナーシング・システム)」を通して、タイムリーな現場教育を展開。看護技術、接遇、看護過程などを学ぶ機会が豊富にあります。

OFF-JT

勤務以外の時間でも、スマートフォンやパソコンからWEBマニュアルを視聴できるほか、各種研修や学術集会への参加も可能。看護師のやる気をサポートします。

■キャリア開発クリニカルラダー

看護職個人としては自身が育つために、組織としては看護職を育成するために、看護職のクリニカルラダーを活用することとしています。クリニカルラダーに沿って、誰かが教えてくれるから看護師が育つのではなく、一人ひとりが自身の目標を設定し、そこへ到達するための指針としてクリニカルラダーを活用します。



■新人ナースサポート

新人看護師が周囲のサポートを求めやすくするため、名札に「新人マーク」を表示。職員全体で温かく見守り、成長を支援します。



特定行為研修

医師又は歯科医師の判断を待たず一定の診療の補助(特定行為)を行うことができる特定看護師の養成が求められています。特定行為研修(医師による直接指導やe-ラーニングでの学習)を受けることにより実践的な理解力や思考力、判断力、専門的な知識・技能の向上を図ります。研修修了後は、手順書に示された内容に沿って患者さんの状態に応じた適切な医療をタイムリーに提供することができ、治療効率の向上に貢献することができます。

脱水を繰り返すAさんの例

研修受講後
特定看護師

医師

Aさんを診察後、手順により脱水症状があれば点滴を実施するよう看護師に指示。

看護師

Aさんを観察し、脱水の可能性を疑う

受講前の場合だと...

看護師/報告 → 医師/点滴実施の指示

看護師

医師に結果を報告

手順書に示された病状の範囲内 → 手順書によりタイムリーに点滴を実施

理念

私たちは医の倫理をしっかりと見据え、質の高い、安全で安心な医療提供をとおして、地域を守り、地域から信頼される病院を築きます

病院概要

病床数 540床 (一般病床 534床 感染症床6床)

診療科(標榜科) 全31科

内科	呼吸器内科	循環器内科	消化器内科
糖尿病・内分泌内科	腎臓内科	血液内科	脳神経内科
老年内科	緩和ケア内科	腫瘍内科	精神科
小児科	外科	乳腺・内分泌外科	整形外科
形成外科	脳神経外科	心臓血管外科	皮膚科
泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科
放射線科	麻酔科	リウマチ科	リハビリテーション科
救急科	病理診断科	歯科口腔外科	

各種指定

救急告示病院	臨床研修指定病院
地域周産期母子医療センター	地域がん診療連携拠点病院
救命救急センター	地域医療支援病院
地域中核災害拠点病院	労災保険指定病院
国民健康保険指定医療機関	結核指定医療機関
被爆者一般疾病医療機関	第二種感染症指定医療機関
脳卒中救急システム選定病院	脳死下臓器提供施設
生活保護法指定医療機関	ドクターヘリ受け入れ病院
高度救命救急医療機関(地域医療計画)	心筋梗塞システム選定病院
肝疾患専門医療機関	愛知県DMAT指定医療機関
東海ブロックエイズ治療協力医療機関	マンモグラフィ(乳房X線写真)検査施設
養育医療機関	自立支援医療機関(育成医療・更生医療)
生活保護法指定介護機関	母体保護法指定医配置医療機関
母体保護法指定医師研修機関	身体障害者福祉法指定医配置医療機関
NCD施設会員	

病院長からのメッセージ

地域社会に先進的な医療を提供するために、ブランディングとレジリエンスを実現し、選ばれる“強い病院”を目指していきます。



1938年に開院した海南病院は、2018年に80周年を迎えた歴史ある病院です。2013年には、愛知県下で19番目となる救命救急センターの指定とともに、その後、地域中核災害拠点病院に指定されました。2016年には、約6年におよぶ大改修を終え、翌年には地域医療支援病院にも指定されるなど、地域の中核病院として大きな成長を遂げています。

当院は古くから「和を大切に心ある医療を実践する」ことを使命として掲げています。これは代々受け継がれてきた「患者さんに寄り添い、患者さんの目線で考える」という思想でもあります。この使命を実現するために、客観的な病院の評価を行う「認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML(コムル)」の第三者評価を受審。1階には「声の箱」を設置し、患者さんからのご要望、ご意見を募り、病院の施設・サービスの改善に役立てています。

海南病院の重要なテーマである地域連携においても、積極的に活動を行っています。2020年、電子カルテを全面更新し、地域の各クリニックで患者さんの最新カルテを共有できるようにしました。

月に1度の症例検討会には、多数の地域の医師が集まり、積極的に討論が行われています。2018年には20年ぶりとなる病院の一般公開(オープンホスピタル)を行い、小学生の皆さんに病院の中を探検してもらう楽しいプログラムも開催しました。これらの活動は、一つひとつは小さくても継続して積み重ねていくことで、地域との信頼関係を強化できると考えています。

今後、海南病院がさらなる発展を遂げるためには、二つのテーマが重要と考えています。一つは「ブランディング」です。病院の取り組みや活動を積極的に社会へアピールし、より多くの方々に認知され、注目される必要があると思っています。二つ目は「レジリエンス」です。「回復力、弾性力」という意味ですが、医療現場の言葉に置き換えると「あらゆる事態を想定し、備え、対応する力」だと捉えています。私たちはこの2つのテーマを意識し、地域の皆さまや地域の医療従事者の皆さまから選ばれる“強い病院”を築いていけるよう努めていきます。

病院長 奥村 明彦

